

## < 考査研究 3 > 和歌の内容を読み取ろう（言語文化 読むこと）

### 1 研究の背景

本研究は、「作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること」を単元の目標の一つとして、内容を理解し、解釈する力とそれを踏まえて表現する力を測るための考査問題の作成を行った。授業で男の詠んだ「筒井筒〜」（『伊勢物語』）の和歌の解釈や書き換えをグループで取り組ませ、ループリックを用いて相互評価させた。そこで、考査では女の詠んだ「くらべこし〜」の和歌について、本文の内容を踏まえつつ、和歌に詠まれた女の心情を自分の言葉で書き換えさせる問題を設定した。本研究を通じて、身に付けさせたい力を測る適切な考査問題の作成方法と、持続可能な評価方法の検討材料を提案する。

### 2 指導目標

#### (1) 考査で測りたい力

作品の内容を読み取り解釈する力とそれを踏まえた表現する力

作品や文章に表れているものの見方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 B(1)イ

#### (2) 教材

『伊勢物語』 「筒井筒」

#### (3) 対象

定時制 普通科 1年生 17名

### 3 実施した考査問題と採点基準

#### (1) 考査問題（問い）

「くらべこし〜」の和歌について、和歌の贈答にいたるまでの本文の内容を踏まえつつ、女の気持ち分かるように、自分の言葉に書き換えて答えなさい。 【配点・10点】

問いの作成においては、「会話形式」や「選択肢」の問題も考えたが、今回は「思考・判断・表現」を問う問題であり、「知識・技能」を使って和歌の内容を自分の言葉に書き換える・表現することに主眼を置いた。また、過去に作成したものをベースに、新学習指導要領に合わせた問題になるようアレンジした。

#### (2) 採点基準

- ①大人になってからの恥じらいの気持ちがある。
- ②親が勧める結婚話を断っている。
- ③髪の長さについての記述がある。
- ④髪上げについて「反語」を用いている。
- ⑤男と結婚したい心情の記述がある。 【各2点・計10点】

#### (3) 解答例

大人になりあなたと顔を合わせるのには恥ずかしいけれど①、親が勧める他の男との結婚話は断り②、あなたを夫にしたい（結婚したい）⑤と思い続けている間（いちずに思い続けている間）に、幼い頃あなたと長さを比べ合った私の振り分け髪も、肩より長くなりました③。（私も成人の儀式を行えるほどに成長しました。）あなたでなくて他の誰がこの髪を結い上げるのでしょうか、いや（私の夫となる人は）あなた以外にいません④。

採点基準については、和歌の贈答にいたるまでの本文の内容（①・②）と和歌に表れている女の気持ち（③～⑤）が分かるように、自分の言葉に書き換えているかをポイントとした。①と②は本文の内容を踏まえつつ、「親のあはすれども」や「聞かでなむ」の知識・技能の理解を確認し、③と④は和歌の内容を解釈しつつ、「反語」を理解して書き換えているかを見ている。⑤は「書き換え全体のどこかに記述があればよい」とした（「解答例」では、書き換えの中盤に記述されている）。また、漢字の間違いなど表記上の間違いは問わず、①～⑤それぞれ2点の配点で、10点満点とした。

しかし、本校1年生の2学期中間考査で、このような「問い」に答えることは「正直、難しいであろう」と考え、そこで授業の中で男の和歌を使って、和歌の書き換えにチャレンジさせることにした。授業において、男の和歌の内容を捉える中で本文の内容に触れ、考査において、女の和歌を自分の言葉に書き換えさせることで、生徒の読み取る力や解釈する力、それを踏まえた表現する力を測ることにした。

下記に授業の中でどのように男の和歌を扱ったのか、授業案を抜粋したものと和歌の書き換えで使用したルーブリックを提示する。

#### (4) 授業案（抜粋）と和歌の書き換えで使用したルーブリック

時間	授業案・学習活動	重点項目			評価方法
		知	思	態	
2	本文の内容を踏まえつつ、男の和歌を自分の言葉に書き換える。（グループ活動） ⑤和歌の贈答にいたるまでの男のことにする本文の内容を書き出す。 ⑥男の和歌を直訳する。 ⑦本文の内容を踏まえつつ、男の和歌を自分の言葉に書き換える。（ワークシート）。 ⑧各班で書き換えたものを回し読みし、 <u>相互評価する</u> 。（ワークシート）。		◎	◎	・記述の確認 （ワークシート） ・行動の確認

和歌の書き換え（ルーブリック）	
A	本文の内容や構成、展開などについての <u>的確</u> に読み取ることができ、和歌に表れている女の気持ちを <u>的確</u> に自分の言葉に書き換えている。
B	本文の内容や構成、展開などについて <u>おおむね</u> 読み取ることができ、和歌に表れている女の気持ちを <u>おおむね</u> 自分の言葉で書き換えている。
C	本文の内容や和歌に込められた心情について、一部分でも読み取り書き換えている。

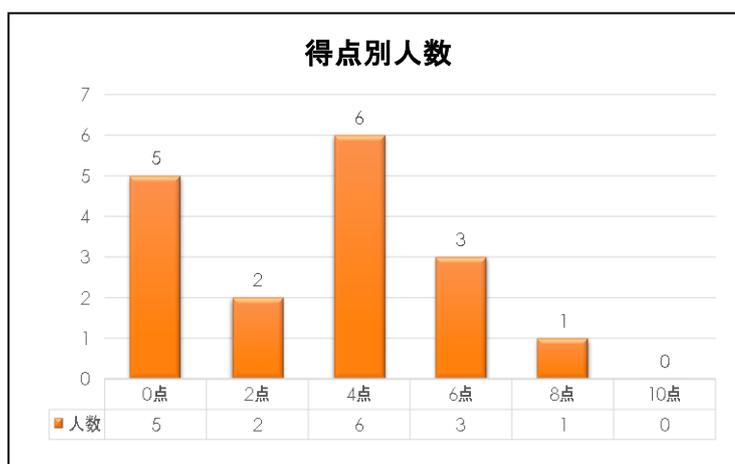
問いの中で、「本文の内容を踏まえつつ」としたので、和歌の書き換えだけができていても「A評価」とはならず、あくまで本文の内容と和歌、両方の書き換え・解釈が的確にできているものだけをA評価とした。

#### 4 生徒の取組状況と採点の実態

##### (1) 生徒の取組状況

【資料1】得点分布の0点5名は、日本語指導が必要な生徒であった。そのうち、無解答が3名、本文を写しただけの解答が1名、何か書かれているが意味がとれない解答が1名であった。全体で10点満点の生徒はいなかったが、授業で男の和歌の書き換えに取り組んだことで、考査ではほとんどの生徒が問いに答えようとしていた。

【資料1】得点分布



## 【資料2】採点基準別の正答人数

採点基準別の正答人数		
	採点基準	人数
①	大人になってからの恥じらいの気持ちがある	2
②	親のすすめる結婚を断っている	4
③	紙の長さについての記述がある	9
④	髪上げについて「反語」を用いている	6
⑤	男と結婚したい心情の記述がある	6

### (2) 採点の実態

【資料2】で分かるように、点数に差ができたのは、採点基準①と②の「本文の内容を踏まえつつ」の部分であった。また、採点基準⑤の記述を忘れてしまったという生徒もいた。全体として、男が背文を用いて自分の成長を表現したことに対して、女が髪の長さで成長を表現した点を多くの生徒が書き換え、表現できた。また、採点基準④「髪上げについて『反語』を用いている」を満たすことができた生徒が3分の1もいたことは、例年にはなかったことである。

## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果（生徒の振り返り）\*一部抜粋

- ・和歌を書き換えるまでは、難しい言葉ばかりで理解するのに時間がかかりましたが、やっていると素敵な物語だと分かりました。
- ・言語文化の授業は、和歌に限らず難解ですが、一つ一つの言葉を理解できるように勉強していきたいと思います。
- ・グループで話し合ったり、みんなの意見を聞いたりして、いろいろな捉え方があって、面白いなと思いました。
- ・テストで自分が納得できるところまでできた。和歌が苦手で、やる前は自信がなかったけど、今は古文の授業が楽しみです。

自分の言葉に書き換えることができず、「苦労した」「難しかった」という振り返りが多く見られた。その点では、授業の改善が必要であるが、和歌を中心とした歌物語の読み取りを通して、古文に対する興味・関心を広げることができたと思えるような振り返りも多くあった。

### (2) 課題

本研究は、考査と評価についての研究であったが、考査問題の作成に当たっては、「思考・判断・表現」の観点全てを踏まえることや、問いが曖昧になり、解答が主観的になってしまうことなどが課題となった。また、評価については、複数の教員で話し合い、深めていくことが必要だと痛感した。そして、本研究を通して改めて感じたことは、「授業を大切にする」ということである。授業において学習に向かう意欲を高め、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の向上を図り、考査などで資質・能力の伸長を確認する。今回は授業において、男の和歌を考える中で本文の内容を解釈し、考査において女の和歌を自分の言葉に書き換えさせることで、生徒の読み取る力や解釈する力、表現する力を測った。生徒の感想からは、古文の授業全体のことや和歌の書き換えに関するだけでなく、我が国の伝統や文化に対する意欲の高まりを実感することができた。今後も継続して、適切な考査問題の作成と持続可能な評価方法の検討していきたい。